

令和3年度 第2回上尾市幼児教育推進協議会

令和4年2月7日（月）

午後3時00分から午後4時30分まで

上尾市役所7階教育委員室及び各所属施設等  
（オンライン）

次 第

司 会 指導課長

○ 開会のことば

学校教育部長

1 委員長あいさつ

2 報 告

（1）幼児施設視察（令和3年11月18日実施）

（2）上尾市幼・保・小連携合同研修会（令和3年12月7、8日実施）

3 協 議

（1）幼児・保育施設での発達支援の必要な幼児に係る課題解決の手立てについて

（2）発達支援を必要とする幼児の小学校への接続に関する現状と課題の把握について

4 その他

○ 閉会のことば

学校教育部次長

1. 実施概要

実施日時：令和3年11月18日（木）午前10時00分から11時30分まで  
 （約1時間の視察及び30分の意見交換）

視察施設：学校法人 上尾田中学園 みやした幼稚園

視察内容：前回協議会で出た発達支援を必要とする幼児等への関わり方についての現状と課題の解決のための手立てについて実際に視察する。

2. 参加者

委員：寺崎副委員長、長委員、熊坂委員、田中(元)委員、小林委員、安田委員

事務局：瀧沢部長、関次長、山田指導主事、野間主任

3. 意見交換

熊坂委員	<p>加配教員のいるクラスでは、子供の集中が切れたり、先生の説明が分からなかったりする時に、適宜、丁寧に声をかけたり、補助したりしていた。4歳児のクラスでは、制作に取り組んでいたが、クラスがとても落ち着いていた。先生方の事前の準備や支援体制がよくできていると感じた。先生が、制作について説明をされていて、理解が難しい子供には、加配教員が臨機応変にその子に合った形で指導を行っていたり、分からないところは先生に聞いたり、お互いに連携して丁寧に保育していると感じた。年長クラスでは、お遊戯の練習に取り組んでいたが、クラスが明るく、子供達が楽しみながら取り組んでいた。集中できない子供には、先生がついて補助したり、できたときには褒めたり、それぞれのクラスで先生の配慮が伺えて、とても参考になった。</p>
長委員	<p>私の保育園は、60人定員で、多くても子供15人に対し1人の教員で対応する。あれだけ多い集団を1人の先生が指導するのはすごいなと圧倒された。また、私の園の加配教員の付き方、対象幼児の配置の仕方とは違って、今日は、どのクラスも正面の左後ろに対象幼児がいて、すぐ近くに加配教員がいて見守っている様子だった。私の園では、先生の話に集中しやすい担任の目の前に対象幼児を配置し、集中が切れた時や大変な時に、そばにいる加配教員が付き添いに行くという形を取っている。全体のクラス運営に乱れが出ないように、そのような配置にしているのかと思うが、多くの幼児を上手くまとめていると感じた。また、保育環境の点で、各クラスに固定の黒板があるのは素晴らしいと思う。年中クラスでは、黒板に新聞紙を張り付け、子供の机の上を再現しており大変分かりやすかった。また、保育園との違いでは、園内に画鋏が見られたのに驚いた。特に発達支援を必要とする幼児にとっては、画鋏は危険ではないのかと思った。</p> <p>加配教員も落ち着いて幼児に関わっているのを感じ、力量のある教員が対応されているのだと感じた。</p>

田中委員	画鋏については、保育園では県の指導を受け画鋏は使用していない。やはり保育園は小さい子供が裸足で活動するので、画鋏は危険との判断である。幼稚園では、県の学事課の指導の中で、画鋏については全く指導がないため、現在は使用しているが、幼稚園での使用については思案中である。
安田委員	どのクラスも集団生活を意識して指導していることがよく分かった。どのクラスの先生もどっしりしていて穏やかにその時間が流れているという印象だった。加配教員も上手についていると思った。ついている幼児はそれぞれタイプが違うので、一人一人の対応は大変なのかなと感じた。年長クラスでは、おそらくギャラリーがいたということも影響したと思う、普段はもっと違う場面もあるのだろう。いずれにしても、先生が上手にメリハリ付けて指導しており、ダメダメばかり言わず、ある程度多めに見逃しているというところも、いい指導がされていると感じた。やや心配なのが、年中クラスのハサミの指導については、丁寧な対応が必要だと感じた。クラスに1人に加配教員を付けるという形で丁寧に指導し、しっかり育てていくことで、就学に向けた底上げになるのではないかと思う。
小林委員	コロナ禍で、他の教育施設の視察を行う機会が少ないのでこのような機会は有難い。子供たちが落ち着いて、先生の話をしている姿が素晴らしいと感じた。先生方のこれまでの指導と幼稚園が培ってきた教育方針が反映されているのではないか。発達支援を要する幼児に対する加配教員については、小学校ではなかなか申請しても来ていただけないので、このように丁寧に指導ができる教育環境は素晴らしいと思う。年中クラスについては、先生が繰り返し指示をすることで、子供も動けていたり、また、好きな色を選べなくても自然に人に譲ることができる優しい心を持った子供たちの姿が印象的だった。加配教員の支援が必要な幼児についても、先生の指示はよく聞いており、いざ、はさみを扱う際に、先生がその子の発達に合わせて上手く指導されていた。年長クラスについては、小学校につながる良い授業だった。加配教員もそばに寄り添って見届けていた。一方で、ずっと膝の上に乗っていたのが気になった。小学校では加配教員がつく、つかないにかかわらず、子供を教員の膝の上に乗せることはしない。あと3～4か月の小学校入学にあたって、先生方の言葉の指示でできるようになるように、先生方のこれからの頑張りに期待したい。
瀧沢部長	子供たちが先生の話をよく聞いている様子がとても印象的だった。年長クラスで、子供が、先生の身振りを見て、覚えて、真似て、体現している様子を見て、小学校も言葉の世界だが、幼児教育でも、こんなに言葉でのコミュニケーションが多いのかと驚いた。一方で、発達支援が必要な幼児は、聞くことが困難なのか、聞いているのか、聞く態

瀧沢部長	度が上手くできていないのか、寺崎副委員長が仰るように、大人にその時求められる見方について、聞いていないように見える子供にどのような支援やアプローチが必要なのか考えさせられた。
関次長	幼稚園の視察は初めてだったので、幼児が静かに先生の指導を受けている様子に驚いた。
山田指導主事	小学校への接続を意識して視察させていただいた。年中クラスでハサミの使い方をととても丁寧に段階的に指導する様子を見て、幼児教育でしっかり指導させていただいて小学校に就学してくるのかと感じた。子供の個人差があるところを、先生が一人一人見ながら支援している様子が印象的だった。小学校の先生にもこのような様子を見て欲しいと感じた。
野間主任	子供が年中なので、家での様子と幼稚園の集団生活は全然違うと感じた。また、担任と加配教員が、子供一人一人の状況に応じて、連携してクラスをまとめている様子が印象的だった。
田中委員	幼児が先生の話をよく聞くという感想をいただいたが、やはり、小さい時に先生と幼児の信頼関係が築かれ、子供に幼稚園に来たら安心して過ごすことができるんだと感じさせてあげることが、年次が上がった時に、幼児が先生の話をよく聞くという態度につながっていくのではないかと考えている。また、先生方には、幼稚園の中で、教育要領を踏まえたうえで、幼児にどう対応したいかを自分で考えさせ、できるだけ先生のやりたい方法で、対応させるように心がけている。先生方がやりたいことをやっていなければ、やはり子供には伝わらない。また、特に若い先生方は新しい教育内容や教育方法を学んできている。時代によってギャップもある。若い先生が学んできた新しい知識を現場で使えるように、先生方が自由に発言できる環境を整えるよう心掛け、教員に接している。
寺崎副委員長	加配教員の付き方、配置位置については、配慮の必要な子供を特出させず、自然にそのクラスの中に入っている様子を見ることができた。まだ、年齢的にも、くっつきたくなる時も多いと思うので、ある程度大目に見てもいいのかなと思った。加配の先生が入ることによって、その子だけでなくその周りの子供の雰囲気が変わってくる様子が見られた。クラスになっていくというプロセスの中で、この子がいるからどうではなく、この子と一緒にみんながやっついこうというクラス運営に対する先生方の配慮が丁寧になされていたと感じた。 聞く姿勢については、「聞く」ということは、言葉の発達が一番ベースになっているもので、赤ちゃんから、だんだんと成長・発達に従って、「聞く態度」になっていくものである。初めのうちは聞いてないように見えるかもしれないが、案外、子供たちは背中で聞いていて、耳だけで聞いている訳ではない。先生を見ているから聞いているかというところではなく、見ていなくてもきちんと聞こえていることもある。

寺崎副委員長	<p>先生方の声が子供に届いているかどうかを大事にしていくといいと思う。その意味では、各クラスの先生の声がきちんと子供に届いていると感じた。また、先生方が、背中の方において自分の視野に入らない子供をきちんと捉えて、丁寧に対応していると感じた。教員が自分の背で子供を感じていられるかは非常に大事だと思う。また、先生方がクラスの中で、先生と子供の信頼関係が築かれ、次第にクラスになっていくというプロセスを丁寧にとらえて指導していると感じた。また、ハサミの使い方については、案外子供にとっては難しい。先生が、紙の方が動かすようにと何度も見せながら指導していたが、小学校ではハサミの指導を行わないと思うので、時間かけてやっていく必要があると思う。</p>
--------	---

## 上尾市幼・保・小連携合同研修会 実施報告

## 1. 実施概要

## 実施日時

## (1) 西側の幼児施設及び小学校

令和3年12月7日(火) 午後3時00分から午後4時30分まで

## (2) 東側の幼児施設及び小学校

令和3年12月8日(水) 午後3時00分から午後4時30分まで

## 実施場所

## (1) 西側の幼児施設及び小学校 上尾公民館 401 講座室

## (2) 東側の幼児施設及び小学校 上尾公民館 501 講座室

## 実施内容

## (1) 事例発表

西側の幼児施設及び小学校 (平方幼稚園、大石北小学校)

東側の幼児施設及び小学校 (原市保育所、中央小学校)

## (2) 研究協議

## 2. 参加者

市立小学校(21名)、市立幼稚園(1名)、市立保育所(14名)、  
私立幼稚園・認定こども園(11名)、私立保育園(18名)

## 3. 参加者からの感想まとめ

- ・幼・保・小での取組や子供の様子を知る良い機会となった。(全体共通)
- ・コロナ禍で幼・保・小の交流ができないが、工夫してできることを実践したい。(全体共通)
- ・研修で学んだことを所属内で共有したい。(全体共通)
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の理解が深まった。さらに意識して指導していきたい。(全体共通)
- ・違う地域の先生とも交流したい。(全体共通)
- ・小学校へのスムーズな接続のために、幼・保での取組を今後の指導に活かしていきたい。(小学校)
- ・幼・保の先生方との情報共有の機会をもっともちたい。(小学校)
- ・接続期の指導や支援の重要性が分かった。(小学校)
- ・幼・保で育んだ力を小学校どう生かすのか、指導の工夫が必要。(小学校)
- ・幼児施設で学んだことが小学校でどう生かされているか、見通しやイメージをもって進めていきたい。(幼児施設全般)

テーマ：b 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

1 対象学年 2年保育4歳児・5歳児

2 具体的な内容

【事例1】「木の実たっぷりデザートのカーキ屋さん」  
(4歳児10月中旬～11月)

○ねらい①

・秋の自然に触れ、遊びに取り入れて遊ぶことを楽しむ

○活動の概要①

ドングリ拾いをした後、集めた木の実を遊びに使えるように幼児の目につく所に置いておいた。すると、ままごと遊びの中でドングリをごちそうにして遊ぶ姿があったので、いろいろな色の絵の具を練り込んだ紙粘土や様々な形のカップを用意しておいた。幼児はカップに紙粘土を入れ、木の実でトッピングし、思い思いにデザートづくりを始めた。「みて！おいしそうですよ」と、自分なりにつくったものに満足する姿や「ここはチョコだよ」「これ、ポッキー」と、イメージを膨らませてつくる姿が見られた。また、園庭で枝や赤い実を見つけると、「これケーキに合うね」とさらに工夫を凝らす様子も見られた。



○ねらい②

・自分の思いを伝え、友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう

○活動の概要②

様々なデザートが出来上がると、つくったデザートを大型積み木に並べて、ごっこ遊びを始めた。そこで、幼児の要求に応じて看板やお金がつくれる素材(画用紙・ダンボール等)、友達との関わりを楽しめるようにエプロンや三角巾を用意した。幼児は、素材を見ながら「看板はお客さんに見えるように大きい方がいいよ」と、自分なりに考え、つくっていた。また、教師が幼児のイメージに合わせて、お客さんになったり、一緒にデザート食べて楽しんだりしていると、幼児同士でもやりとりが始まった。しかし初めは、お客さんになった幼児が「ください！」と言うと、相手が「どうぞ」や「どれがいいですか？」と、応じる前に自分の欲しいものを持って行ってしまおうような、一方的なやりとりが多く見られた。そこで、教師と一緒に遊びながら「お店屋さん、どうぞって言ってたかな」と、相手の動きや思いに気付けるようにした。そして、次第に友達と遊びを繰り返す中で、簡単な言葉で「3つください。」「はいどうぞ」と、実際にケーキを「1、2、3」と数えて渡すといったやりとりに変容していった。

ケーキ屋さんが盛り上がり、友達との関わりが増えてくると、「僕がお店屋さんやりたい」「僕が先に並んでたのに」等、友達と思いがぶつかり合う場面も多く見られた。教師は、幼児の互いの思いを受け止め、相手の思いに気付けるように一緒に考え、葛藤場面を大切に関わった。このような葛藤体験を通して、友達の気持ちに気付き、自分の思いに折り合いをつける姿や相手に自分の思いを受け入れてもらう嬉しさを感じる姿も見られた。

この遊びは、「明日もケーキ屋さんで買いにいこう」「明日はお店屋さんになろう」等、自分たちで遊び場や遊びに必要な物をつくりながら、継続した遊びになっていった。4歳という発達段階を踏まえ、幼児が自分達で遊びの場をつくりやすく、イメージに合わせて動かしたり形を変えたりすることができる大型積み木や段ボールのつ立てを用意したことで、幼児が主体的に友達と必要な場を工夫して作り、同じ場を共有しながら遊ぶ楽しさを味わう経験ができた。



下線・・・10の姿につながる育ち(5歳につながる育ち)	
(健) 健康な心と体	
(自立) 自立心	
(協) 協同性	
(道・規) 道徳性・規範意識	
(社) 社会生活との関わり	
(思) 思考力の芽生え	
(自然) 自然との関わり・生命尊重	
(数・文) 数量や図形、標識・文字などへの関心・感覚	
(言) 言葉による伝え合い	
(豊) 豊かな感性と表現	

環境構成

教師の援助

【事例2】「みんなでいろいろなお店屋さんを開こう」（5歳児10月上旬～10月下旬）

### ○ねらい①

- ・自分たちで考えたことを遊びの中で実現したり、工夫して表現したりすることを楽しむ

### ○活動の概要①

園庭で集めたジュズダマのネックレスやドングリの指輪などアクセサリーづくり、木の実と紙粘土を使ったケーキやパン等のデザートづくり、<sup>(思)(自然)(豊)(数・文字)</sup>芯材を長くつなげたドングリ迷路づくり等、秋の自然物を遊びに取り入れて、友達と工夫しながら製作遊びが盛り上がっていた。幼児が選んで使えるような素材（モール・ホイル紙・セロファン・型抜き・様々な大きさの細長い箱等）を置いておくことで、「より本物に近いアクセサリーをつくりたい」「いろいろなパンの種類をつくろう」「迷路では、どういう風につなげたら上手くドングリが転がるか」等、イメージを実現するために、これまでの経験から素材の特徴や物の特性に気付き、考え選んでつくったり、友達と試行錯誤を繰り返したりする姿が見られた。

<sup>(思)(豊)</sup>ある日、ドングリ迷路を楽しんでいた幼児たちから「年少組さんが僕たちがつくった迷路やりたいんだって」「ゲーム屋さんとかやりたいな」という声があがった。そこで、**教師はその幼児たちから、クラス全員に話をする機会をつくった。**そして、話し合いの結果、年少組を呼んでお店屋さんを開くことになった。<sup>(言)</sup>



### ○ねらい②

- ・友達と考えを出し合い、協力しながら自分達で遊びを進め、達成感を味わう

### ○活動の概要②

翌日、お店屋さんにつながる素材や商品のイメージが広がる絵本を置いておいた。そのことで幼児は、友達同士で誘い合いながら、アクセサリー屋さん、迷路屋さん、ケーキ・パン屋さん等の準備を始めた。<sup>(社)</sup>準備を進める中で、「アクセサリーをかけられるようにしたいね」「迷路でゴールまでいったら商品をあげたら楽しそう。何にしようか？」と、各グループ毎にアイデアを出し合い、工夫してつくることの面白さを味わっていた。時には、話し合いが上手く進まず、思いがぶつかり合う場面もあったが、幼児の様子を見守り、当事者だけではなく、<sup>(道・規)</sup>周囲の友達が相手の思いに共感したり、一緒に**決策**を考えたりして話し合うことを大切にした。

また、活動後や降園時には、**クラスで活動を振り返る時間を設け、グループごとに工夫する様子や協力していた姿を他のグループに紹介した。**そのことで、<sup>(自立)(協)</sup>友達からアイデアや工夫を認められ、自信や意欲につながったり、友達の良さが刺激となり、**自分もやってみようという姿**につながったりした。それと共に、何日に開くか、あとは何が必要か等、<sup>(健)(協)(言)</sup>見通しをもちながら、クラス共通の目的に向かって行動するようになる経験ができるようにしていった。

後日、お店屋さんが開店し、年少児が来てくれると、<sup>(道・規)(社)(言)</sup>年下の子にも伝わるように分かりやすく話す姿や相手に理解してもらえるように話そうとする姿が見られた。相手が嬉しそうに遊んだり、喜んでくれたりしたことで「年少組に喜んでもらえて嬉しかったね」「すごく僕たちの店人気だった」等、<sup>(協)(健)</sup>目標に向かって友達や学級で協力し、できた喜びややり遂げた充実感を味わうことができた。

## 3 まとめ

幼稚園教育要領の解説では、『「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけではなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要がある』とある。

この事例を通して、教師の役割として大切なことは、3点ある。

1点目、4歳児の【事例1】のように、入園して初めて出会うであろう素材（例えば、紙粘土、カップ、枝、木の実等）を遊びの中で思い思いに表現する機会をたくさん設けるようにする。その中で、幼児が素材の扱い方を知ったり、特性を肌で感じたりする経験を基礎としながら、【事例2】の5歳児には、自分のイメージに沿ったものを実現したり、工夫が生まれたりするように計画的に環境を構成していくことである。

2点目、友達関係においては、【事例1】のように4歳児では、友達と一緒に遊び、様々な刺激を受ける中で、興味が広がり、友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう経験を積み重ねられるようにする。そして、【事例2】の5歳児の後半に向けて、友達同士で試行錯誤しながら目的に向かって遊びを進めていく姿へつながっていくように関わったり、活動の展開を工夫したりする教師の援助が大切である。

3点目、2つの事例は【事例1、2】と共に同じお店屋さんごっこの遊びであるが、年齢や発達段階、これまでの経験によって遊び方が変わってくる。教師は、そのことを意識し、幼児の育ちを見取りながら、5歳児へ、そして、小学校へつなげる育ちは何かを見通し、短期、長期の指導計画を立て、実践していくことが重要である。

さらに、事例のような1つの遊びや活動の中でも、10の姿につながる育ちを様々に見取ることができる。遊びの中で人、物、環境等、相互に関連し合い、幼児は心身の成長をしていく。教師は幼児の実態に即しながら、育てたいことを常に念頭に置き、環境、活動の工夫、関わり、幼児の成長等を適切に評価し、改善し、小学校以降の教育につなげていくことが重要でもあり、課題でもある。



テーマ： a 幼保小の接続を踏まえた実践事例

## 1 対象学年・教科等

- 第1学年児童
- 教科…生活科「どきどきわくわく1ねんせい」「がっこうだいすき」
- 第1学年児童及び近隣の幼稚園・保育所の園児
- 教科…生活科「もうすぐ2ねんせい」

## 2 具体的な内容

### (1) 取組のねらい

- ・「どきどきわくわく1ねんせい」  
学校の施設や人などに興味・関心をもち、楽しく安心して意欲的に学校生活を送れるようにする。
- ・「がっこうだいすき」  
自分が興味をもった場所へ探検に行き、そこにあるものや役割について考え、学校の施設の位置や働きなどに気付くことができるようにする。
- ・「もうすぐ2ねんせい」  
来年度入学してくる新しい1年生に、喜んでもらいたいという思いをもち、新しい1年生の気持ちを想像しながら関わり方を考えて交流する。また、新しい1年生と関わることのよさや楽しさに気付き、新しい1年生と交流することができるようにする。

### (2) 授業及び活動の概要

- ・「どきどきわくわく1ねんせい」  
入学して間もない4月に2年生児童の案内のもと学校内を探検する活動。
- ・「がっこうだいすき」  
学校内の興味あるものや場所を1年生児童のみで探検する活動。活動前に質問事項を考えておき、探検時には、興味あるものや場所について質問し、理解を深める活動。
- ・「なかよしこうりゅうかい」  
新しい1年生を招待して、一緒に活動。

### (3) 具体的な手立て

- ・「どきどきわくわく1ねんせい」  
活動時に友達、教職員、上級生等、様々な人との関わりがもてるようにし、児童が楽しく安心して学校生活を送れるよう生活の自立を促せるようにした。
- ・「がっこうだいすき」  
興味・関心のあるものや場所に行き、携わる人に質問したり、気付いたことを友達に話したりして、主体的に学校の人や施設と関わるようにした。
- ・「なかよしこうりゅうかい」  
今までの学習の写真や動画を見せて自分たちが一生懸命取り組んできたことを思い出させた。1年生として、自分に自信をもち、優しく思いやりの気持ちをもって新しい1年生と関わるようにした。

#### (4) 環境や活動の工夫

- ・「どきどきわくわく1ねんせい」

小学校の一日の生活についておおよその流れを各学級で説明した。掲示物やICTを活用して説明するだけでなく、実際の場所に行き、下駄箱や傘立て、トイレの使い方等について入学したばかりの1年生にも分かりやすく説明を行った。練習給食の時には、配膳の仕方、食事の仕方について説明するとともに、牛乳パックの開き方についての動画を活用して説明を行った。

- ・「がっこうだいすき」

1年生の児童が学校生活に慣れ、安心できるよう2度の学校探検を実施した。1度目は、2年生のリードのもとで学校内の特別教室や施設等の探検を行った。2度目は、1年生自身が興味・関心をもったものや場所についてグループで探検を行わせた。質問の仕方や話し方についての事前指導を十分に行い、探検時の児童の主体的な活動を促すことにつなげた。

- ・「なかよしこうりゅうかい」(チャレンジタイムでの交流)

各グループが順番に幼稚園児・保育園児の前に出て、それぞれが教たいことを発表した後、「チャレンジタイム」の時間を設け、幼稚園児・保育園児に発表したことを教えたり、一緒に活動したりした。1年生にとって、「教える」ことを通して、「もうすぐ2年生になるんだ。」という期待感にもつなげることができた。



### 3 成果と課題 (○成果、△課題)

○入学後の4月と少し学校に慣れた6月に学校探検を2度実施したことは、学校生活への興味・関心を高めるとともに、児童の主体性を促すことにつなげることができ、効果的であった。

○幼稚園児・保育園児にとって、入学前に小学校との交流を行うことで、入学への不安や緊張が軽減され、期待感を高めることができた。

○1年生にとって、「相手の立場になって考えること」を意識することができる交流会であった。一つ学年が上がることへの期待感にもつなげることができた。

△入学後の児童は、生活面において経験の差が大きいため、偏りのない学級編成を行うためにも、入学前の情報交換を幼稚園、保育園と入念に行うことが課題である。

△幼稚園児・保育園児の入学に対する不安などを軽減するために、1回の交流ではなく、年に数回交流する機会を設けることが必要だと考えている。

## 令和 3 年度上尾市幼・保・小連携合同研修会 実践報告書

原市保育所  
保育士 宮原 佐知子

テーマ：b 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に視点を当てた実践事例

**1 対象学年（年齢）**

5歳児クラス 男児13名，女児9名（障がい児1名，医療ケア児1名）

**2 具体的な内容****【 取り組みのねらい 】**

身体を動かすことが好きで、4歳児クラスの時から鬼ごっこや中当てなど楽しんでいました。友だちと遊ぶことを喜んでいましたが、相手との思いの違いからトラブルも多くみられた。子どもたちが夢中になっている砂遊びを通して、友だちと相談し合いイメージを共有したり、協力し合ったりする楽しさを味わうことをねらいにし、取り組むことにした。

**【 活動の概要 】**

砂場で“大きい海”を作ろうと始まった砂遊び、「この辺かな～」と一人が掘り始めた。「僕はここから」ともう一人が、少し離れた場所から掘り始める。掘っている所が2カ所にわかれていた為、時間がかかっていた。「早く完成させるにはどうしたらいいかな？」と聞いてみると、少し考えた後、手伝ってくれる人を探しに行く姿が見られた。人数は増えたが、どんなふうに進めていくか、役割分担などは決めてなかったため、最初は水を汲みに行ってしまう子が多く、砂を掘る子が困っている様子が見られた。水を汲みに行っている子に対して「まだできてないよ。」という子がいたので、海づくりをしている子を全員集めて、話し合いをするように提案した。

その中では、自分がやりたいことを主張する子が多かったため、何をやる人が必要なのか、何人ずつ分かれたら良いかなど考えてもらった。水を運ぶのにタライを使うこと、それには4人必要という事になり、水運びの人を先にじゃんけんで決めて、その他の子は砂を掘ったり固めたりすることに決まった。

子どもたちの提案で、海の真ん中に“島”を作ることになり、タライの水がこぼれないよう4人が協力して砂場まで運んで「せーの！」で流していたが、水の勢いが強いと島が崩れてしまう。「〇〇ちゃんが手を放したからだよ」と友だちを責める姿も見られた。手を離してしまった子も間違ってしまったことで落ち込む姿も見られたため、一人を責める行為は良くないことを伝え、どうしたら島が崩れないかをみんな考えてみることにした。

「水の量を少なくする」「そう～っと流す」「もっと島を固くする」などの意見が出た。そこで再度挑戦が始まる。“水運びチーム”は運ぶ水の量を減らして優しく流すようにしたり、“砂をほるチーム”は、島の高さを高くして固めたりしながら進めていき、なんと

か“海”が完成した。できた嬉しさから歓声があがり、手足を入れて喜ぶ姿が見られた。その後は、「次は泡をとろう」「ここは僕がやるね」と遊びが盛り上がっていった。遊びの中で思うようにいかないこと、難しいと感じることもあるが、どうしたら成功するか考えて試してみたり、友だちとやってみようと挑戦したりすることの楽しさを味わっているようだった。

### 3 まとめ

#### 【 成果と課題 】

毎日の生活の中で友だちの存在は大きく、一人でやるより友だちと一緒にすることで、実現できたり、達成感につながったりすることを実感した。

共通の目的に向けて考えたり、協力し合ったりする経験を重ねていくことで、仲間意識が深まっていくと思うので、日々の生活の中に取り入れていきたいと思う。

失敗をしてしまった時に、相手を責めたり強い口調になったりすることがあるので、人に対して思いやりの気持ちをもって、お互いが気持ちよく過ごせるような対応を心がけていきたい。

グループ活動、当番活動などを通して、友だちと一緒に楽しく活動を進めながら、責任感を持って協力し合って取り組むことにつなげていきたい。

『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』の中では、

○共通の目的の実現に向けて考えたり、工夫したり、協力したりしてやり遂げるようになる。  
→『協同性』

○自分の考えを言葉で伝えたり、相手の考えを聞いて取り入れたりする。  
→『言葉による伝え合い』

○友だちと折り合いをつけながら、決まりを作ったり、守ったりするようになる。  
→『道徳性、規範意識の芽生え』

○何人ずつ分れたら良いか、必要人数などを考え決めていく。  
→『数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚』

○また、砂や水の特性を感じ取ったり、工夫したりする姿から物の性質や仕組みに気付く。  
→『思考力の芽生え』

にあてはまり、小学校生活の当番活動やグループ学習に繋がっていくと感じた。

令和3年度上尾市幼・保・小連携合同研修会 実践報告書

上尾市立中央小学校  
教諭 柳瀬 克江

テーマ： a 幼保小の接続を踏まえた実践事例

1 対象学年・教科等

- 第1学年の児童
- 生活科「きれいにさいてね」5時間扱い（5月～9月）

2 具体的な内容

○単元の目標

植物を継続的に栽培する活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、植物に親しみをもち、大切にしようとするができるようにする。

○学習の概要

- ・幼児期の栽培経験に思いを巡らせて、出し合う。
- ・アサガオを継続的に栽培する。(マリーゴールド、フウセンカズラは、学年全体で栽培)

①種の観察 ②種まき ③世話（水やり、草取り、間引き、肥料）④観察 ⑤種取り  
上記の内容で学習を進めていく。

○具体的な手立て

- ・アサガオの変化や成長の様子により関心をもち、愛情をもって育てられるようにするために個人用の鉢で育て、定期的に観察する。
- ・継続して栽培するという目的を意識し、小さな変化にも気が付けるようにするために、毎日業間休みに水やりをする。
- ・教員も水やりなどの世話を積極的に行い、愛情をもって育てている姿を児童に見せる。

○環境の工夫

たねをまこう



児童の反応・姿

幼保小の接続を意識した教師の言葉がけや発問等	児童の反応・姿
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園や保育所（園）で、野菜や花を育てたことはありますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あるよ。</li> <li>・あまりないな。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなものを育てたことがありますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キュウリ、ナス、トマト</li> <li>・アサガオ、チューリップ</li> <li>・毎日、水やりをしたよ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この種を見たことはありますか。(アサガオの種を見せる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何だろう。</li> <li>・小さいね。</li> <li>・あさがおだよ。保育所で育てたからわかるよ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・種を蒔く前に、観察をしましょう。</li> <li>・見たり、触ったり、匂いを嗅いだりしてもいいですよ。</li> <li>・種の形・色・大きさをよく見てかきましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手で触って固いと言ったり、匂いをかいで〇〇の匂いと言ったりしている。</li> <li>・色をよく見て、1色ではなく混色して本物の色を真似ようとしている児童もいる。</li> <li>・様々な角度から見ると形が違うことに気付いた児童もいる。</li> </ul>

今までの経験を想起させながら学習に興味を持たせる。

幼稚園や保育所（園）の時のことを想起して考えている。

生活科の視点

理科の視点

はなのようすをつたえよう



児童の反応・姿

<p>幼保小の接続を意識した 教師の言葉がけや発問等</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>花がたくさん咲いてきたので、今日は花の観察をします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日も花が咲いていたよ。</li> <li>毎日水をあげて、お世話をしてくれてよかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>あさがおの花はどんな花かな。</li> <li>前に育てた時と同じ色の花かな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>色々な色があった。私は、ピンク。僕は、水色。</li> <li>大きな花だったよ。</li> <li>いっぱい咲いていたよ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>花の形・色・大きさをよく見てかきましよう。</li> <li>花はいくつ咲いているかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種によって、咲く花の色が違うことに気付いた児童がいる。</li> <li>大きさが自分の手の平の大きさと同じぐらい。</li> <li>真ん中に何かがあるよ。</li> <li>模様がついている。</li> <li>1、2、3・・・と真剣に数え出す。</li> <li>10個も咲いていたよ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>わかったことや気付いたことを文で書いてみましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文の最後は、丸だったね。</li> <li>小さい「つ」が抜けていたよ。</li> <li>明日、咲きそうな花もあるよ。</li> </ul>

理科の視点

算数科の視点

国語科の視点

経験してきたことを基にして、さらに視点に沿って観察することで、教科としての学びにつながる。

アサガオのかんさつにつき



アサガオの成長の様子を、①いつでも振り返ることができる②学年で共有できる③成長を楽しむにできるという観点から、「アサガオの観察日記」を学年のフロアに掲示している。また、始めに出てくる葉を「双葉」、その後に出てくる葉を「本葉」、「つる」「支柱」「間引き」「追肥」など、知っているとい言葉も記している。児童は、休み時間や観察の後など日記を見て成長を確認したり、幼児期の経験と同じだと気付いたり、日記を見ながら友達と話をしたりなどしている。

3 成果と課題 (成果：○、課題△)

○毎日の生活や遊びの中で身につけた幼児期の学びと育ちを大切につなぐために、今まで児童が経験してきたことを丁寧に扱い、小学校の教科としての学習へと滑らかに接続していくように授業を展開していくことが大切である。教師の意図的な発問や言葉がけによって、児童は段階を踏みながら安心して学習をするとともに、楽しんで学習することができた。

○生活科の学習は、他教科と大きく関連している。児童の就学前の体験や経験を学習に活かし、小学校生活に期待をもてるように計画を立てていく必要がある。また、幼児期から児童期へ、小学校では1年生から6年生までへの学びの接続に見通しをもって、しっかりと取り組んでいくことが大切であると再確認できた。

△小学校での学習を進めるにあたって、児童が幼稚園、保育所(園)でどのような経験をし、どのような学びの基礎を築いてきているのかをよく知っておく必要がある。コロナ禍ではあるが、方法を工夫して幼稚園、保育所(園)との連携を密にし、幼児と児童はもちろん、教員同士も交流の機会を多くもてるようにしたい。



## 1 研修の内容について（実践発表、協議）

## (1) 小学校教諭

- 幼稚園や認定こども園での具体的活動が聞けて、大変参考になった。当番や係活動、生活科や国語につながる活動をしていただいているおかげで、小学校生活がスムーズにスタートできていることが分かり、ありがたく思った。
- どの保育園、幼稚園も子供の活動を大切にしながら、身に付けさせたい力を育てていることが分かった。園で育んだ力を小学校で活かせるよう、見通しをもって指導していくことが大切だと思った。また、コロナ禍での交流で、どのようなことができるか、できることを実践し来年度につなげていきたい。
- 保育士の方々の話を聞く中で、様々な活動の中で子供たちが自分の思いを伝え合いながら主体的に話し合っ解決させるように心がけていることに感心した。
- 近隣の幼・保の方とのグループ協議だったので、どのように見通しをもって、どんな経験をして、どんな知恵をつけて小学校に上がってくるのかが分かり、有意義だった。
- 幼稚園、保育園の実践を聞いて、自主性や協調性を育てていただいているので、小学校でリセットしないように力をつけていきたいです。
- 実践発表や協議を受けて、幼稚園や保育園で取り組んでいることがよく分かりました。幼児期に育てていただいたことを、小学校でも引き続き伸ばしていけるように意識して指導していきたいと感じました。
- それぞれの実践を聞く中で、保育所や幼稚園で、できていることを更に発展させていくことが小学校には大切なのだと改めて思いました。充実した協議になりました。
- 幼稚園や保育園で、どんな活動をし、どんなことを学んできたのか知ることができた。小学校として、一年生として入学してくる児童は、幼・保でどんなことを学んできたのかを知り、さらにレベルアップしていけるような、先を見越した指導をしていくことが大切だと感じた。
- 他の学校の実践事例や保育園の実践事例等を拝見させていただき、改めて、接続期の指導や支援の重要性を学ぶことができました。また、保育園の先生方と協議させていただく中で、保育園や幼稚園での学習の内容について教えていただき、今後の自分の指導や支援に役立てることのできる大きな学びになりました。
- 生活習慣を身につけるという視点では、“生活をよりよくしたい！”という気持ちを大切に支援・指導にあたることが大切。
- 食育について“好き嫌いが多い児童の姿”が見られることがあるが、望ましい姿となるよう“自分で決めさせる”ことが大切。そのため、望ましい姿を明確にし、支援・指導していくことが大切。
- 初めての参加だったので、とても勉強になりました。もっといろんなことを幼稚園・保育所の先生に聞いてみたい。
- 小学校と保育所からの実践発表は、それぞれの成長過程が違うため、大変参考になりました。どちらも子供たちに視点をあて、育ててほしい力、身につけてほしい学びに意図をもって取り組んでいることがよく分かりました。
- 各小学校、保育所、幼稚園の実践を聞くことができ、大変参考になりました。特に「幼稚園ではここまでやっているのか」と驚くこともあり、入学前の実態を知ることができました。
- 幼・保・小で顔を合わせ、直接話ができる場は少ないので、幼・保での様子を知ることができ、有意義でした。
- 実践報告により、他校、他園の様子を知り、自校に活かしたいと思いました。グループ協議では、より詳しく知り、接続に活かしたいと思いました。また、このような経験をしてくと小学校生活でもスムーズにいくということを伝えられる機会となりました。逆に、幼・保での経験を知る良い機会となりました。
- 実践発表では、各校・園のそれぞれの工夫や活動の取り組み方などが知れて、大変勉強になりました。グループ協議では、実態を話し合いながら、意見交流ができ、これからの指導に活かしていきたいと思えます。

- 他の学校の取組を知ることは勉強になりました。特に幼・保では、どのようなことをしているのかを知っているのは大切だと思います。
- 幼稚園・保育所で大切に育んでいること、小学校で大切に育んでいることを知ることができました。まずは、知ることが円滑な接続の第一歩だと思います。児童が安心して学校生活を送ることができるよう、遊びと活動への接続がスムーズになるよう考えていきたいです。
- 遊び・活動をとおして子供たちの学びを育んでいくことが大切だと感じました。幼稚園・保育所で子供たちがどんな経験をして就学してきたのかを知ることは小学校の学びをスタートさせるにあたり大事なことだと改めて感じました。
- 幼稚園・保育園ではどのようにして幼児の力を育んでいるのかがよく分かりました。交流会ができない中で、DVD やオンラインでの交流というお話を聞くことができ、これから実践してみようと思います。

## (2) 幼稚園教諭

- それぞれの園や学校での実践例が聞けた。保育園とは、1つの行事(事柄)をみんなで協力して作り上げるという共通点があった。思いやりや積極性など、知らずに育つ部分があることが感じられた。
- 他の園の状況、取組が分かって良かった。小学校の先生がいなかったの、話を聞きたかった。同じ小学校へ行く子供の様子を知ることができて良かった。
- 小学校に向けてどのような取組をしたらよいかを話すことができ、大変貴重な時間になった。たくさんの言葉を知ることや経験を増やすこと、自分以外の物や人の気持ちを考えていくことが幼児期に大切なことだと改めて実感した。10の姿に向かってその子なりに成長したところや今後の援助の仕方について考えたいと思った。
- 小学校、幼稚園、保育園でやっている取組が分かり、参考になった。どの事例も10の姿に沿って、大切にしながら保育・授業を行っていることも感じた。グループ協議の中で、小学校の先生に質問できてよかった。
- 協議があることで、小学校の先生方が実践されていること、今困っていること等の課題を知ることができるのは、とてもありがたいと思った。また、他園で実践していることを知り、自分の保育でも始められることがあったので、こういった機会はほとんどないので貴重だと思った。
- 各先生方の実践発表を聞き、自園でも取り入れていきたい取組を知ることや幼・保・小での取組がそれぞれつながる要素もあると気付くことができた。
- 小学校で大切にしているもの、また、コロナによる影響で特に心にとめなくてはいけないものを改めて知り、幼稚園として心にとめておかななくてはいけない(10の姿)を改めて思いました。
- 遊びや活動を通しての、自然との触れ合い、協同性、言葉での伝え合い等できている(育っている)ところは多くあり、小学校につながる部分もありそうでした。具体的な食事マナー、身の周りの整理等、もう少しできるようになってから送り出してあげたい事項を知ることができました。
- 近隣の小学校、幼稚園、保育園の先生たちと話す機会になり、とても充実した時間になりました。話した内容を園に持ち帰り、他の先生たちにも共有したい内容がたくさんでした。ありがとうございました。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえて、小学校との接続を意識した取組が大事であることを学びました。幼稚園でした経験等が小学校で活かされていることを知り、改めて基本的な生活(基礎や生活習慣)を見直して、伝えていけたらいいなと思いました。
- 直接小学校の先生とお話できる数少ない機会なので有意義な時間を過ごすことができました。接続を意識した活動のねらいが、幼・保・小共に無理なく移行できるようにという点で共通していたので安心しました。他の園の取組も聞くことができ参考になりました。



### (3) 保育士

- 近くの小学校や幼稚園での生活状況や目指している姿について話を聞くことができ、とても勉強になった。子供たち主体ということ大切にしているけれど、協議をとおしてさらにできることを発見することができたので、すぐに実践していきたい。
- 小学校での課題を聞くことができたので、挨拶や話を聞くことなどできるように保育していきたいと思う。
- 小学校の先生から直接話が聞けなかったのは残念だったが、それぞれの幼稚園、保育園の実践が詳しく聞けて良かった。他園、他地域の発表を聞いて鴨川小学校区ではかなり丁寧に幼・保・小の交流をしていてありがたいと感じた。
- 子供の幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿、幼・保・小の接続を踏まえ、それぞれの場所での活動、工夫、子供の育ちを詳しく聞き、同じ視点で考えることができ、とても勉強になった。小学校の先生が欠席だったので、話を聞きたかった。
- 小学校生活にスムーズに入れるには、どのような姿に育つとよいのかを改めて知ることができた。
- 小学校での取組について情報共有ができ、また同じ年長担任の方からこのようなねらいで活動しているという事例が聞けたことは、これからの保育で活かせる貴重なお話となった。なかなか小学校、他園の取組を聞く機会がないので、ありがたかった。小学校の取組をもっと聞きたかったので、質問などの時間がもっとあればと思った。
- 実践発表を聞き、自園でも取り入れようと思えるものがあり、今後実践していけたらよいと感じた。また、10の姿を目安とし今後も活動を考え、楽しく過ごす中、身に付けていけたらよいと思う。
- 実践の中で、小学校でも幼・保で行った経験のあるものを取り入れてくださっていて、子供たちも安心するのではないかと思った。小学校で子供たちが安心し、自信をもって育っていくよう、伝え合う力、協働性、道徳性など保育所でも意識して育てていきたいと感じた。
- 実践発表を通して、他園や小学校の取組について理解を深めることができた。保育園や幼稚園で培ってきた協調性や自立心などを小学校で滑らかにつなぎ、子供たちが負担なく学校生活を始められるような援助が必要だと感じた。
- グループでは、一年生生活科を中心とした学習活動「良いことニュース」、コロコロドッジボール、芋の苗植えなどを実践しての発表、協議をした。「良いことニュース」は、学校でも取り組んでいることを知り、今後活かしたいと思った。
- 学校探検、野菜の栽培、夏祭りごっこ、挨拶の大切さなど実際施設を目にするこゝで興味もてるため、コロナ禍で残念。野菜の栽培、夏祭りごっこを通してグループ活動の様子は楽しそうで、楽しい中で相手の思いに耳を傾けたり、言葉による伝え合いを学べることは大切だと感じた。幼・保・小お互い意識し、共通理解していくことが必要。
- 実践報告を受けて、小学1年生では、生活の仕方についてとても丁寧に教えて下さっているのだと知りました。グループ活動の場を通して自分の思いを言葉で伝えられる機会をつくり、就学した後も、先生に思いを伝えられる子を育てていけたらと思いました。
- 小学校、幼稚園、公立保育所で取り組んでいることを聞き、様々な取組があり、参考になった。子供たちの主体性や食育の取組によって苦手な物でも頑張る姿にぜひ園で取り組みたいと感じた。また、小学校で最初に着席など気を付けている部分を聞けたので意識して取り組んでいきたい。
- 実践発表では田植えに取り組んでいることや集団あそびの中で学んでいることなどを話し合った。遊びでは小学校になると休み時間にどんなことをしているのかが見えづらく、トラブルになった時に手が出てしまう子もいるとのことだった。幼児期にたくさん遊んで、友達とやりとりをする中で解決する力が身につくので遊ぶことが重要だと改めて感じた。
- 小学校の様子、姿を知るよい機会となりました。グループで話す時間があり、小学校、違う保育所の様子を伝え合い、いい情報交換の場所となりました。話合いの時間がもう少しあったら話をもっと深められたり、情報交換がもっと出来たように思う。
- いろいろな実践が聞けて参考になりました。

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は、活動において目標を立てていますが、普段の生活や遊びの中で身につけていくことがたくさんありました。子供たちが主体となり、活動を進めていけるよう保育をしていきたいです。
- 昨年も参加させていただきましたが、10の姿を見据えての活動が増え大変勉強になりました。幼・保で行えていることが、小学校では、規制されていることがあることも知り、参考になりました。
- 他園、小学校での取組が共有できた。発表の中で参考にしたいと感じることが多く参加して良かったと思う。
- 小学校でも保育所と同じような取組をしていると感じることができた。小学校に向けて子供たちが少しでも不安を感じないように、保育所のうちにできることは行っていきたい。
- 他園、小学校の方と情報を共有する機会がなかったのもとても良い機会だった。小学校での過ごし方、時間、入学時の不安を取り除くような配慮をしてくださっているのは安心した。小学校でできてほしいことを明確に教えてもらい、保育をどのようにすべきか考えるきっかけとなった。
- 小学校での子供の姿が事例等を踏まえて伝えていただけたことで、とても分かりやすかったです。どんなことを大切にしていけばいいのか改めて考える機会となりました。
- グループでの話し合いでは、他園の様子や小学校に行った子供たちの姿を知ることができた。保育園で経験したことが小学校に行った時に、経験したことが発展へと変わり成長していくことも改めて分かった。
- 保育所、幼稚園での経験が大切で土台となっていることをとても感じた。小学校に行って大きく反映されていくので接続を意識した取組の大切さを感じた。コロナ禍で交流できないので園児が不安にならないような取組を小学校でしていただけるのでスムーズな接続になっていくと思った。小学校でも連続性をもって少しずつ学校生活に慣れ過ごしていけるようやっているようで安心した。
- 小学校での取組を知ることができて良かったです。基本的な生活習慣を改めて見直していこうと思いました。
- 普段、他の園の人や小学校の先生と話し合える機会がないので、とても充実した時間でした。園での取組が小学校でちゃんと活かされていることを知れて安心しました。他の園での小学校に向けた取組も聞けたので、今後の保育で検討していきたいと思います。
- 改めて自分たち（保育園の職員）がどのようにしたら子供たちが自信を持って小学校へ行くのかということを考えることができた。また、小学校として、どこまでできてほしいか、大切にしていることが何かということを知れたので良かった。
- 実践発表の中で、保育所、幼稚園での経験を踏まえて様々なことを進めていることが分かりました。また、期待をもって入学した子が、不安な気持ちにならないよう配慮してくださっているというお話もありました。これからも接続、10の姿を大切に、保育内容を考えていきたいと思います。
- 小学校・幼稚園の先生のお話、実践発表を聞かせていただき、とても参考になりました。小学校ではこんな風に学んでいくのかということも分かりやすく、今後の子供たちとの関わり方など考えていくきっかけになりました。
- 様々な活動から「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」とつながり、それが小学校生活を安心して過ごすことへ結びついていくことを感じた。具体的な小学校での取組が分かり、子供たちへ伝えていくことが大事だと思った。
- お互いの実践報告を聞き、遊びをとおして友達同士のかかわりや異年齢児とのかかわりの中で育まれる協同性や社会性、経験をとおして、自発性や主体性の大切さを学んだことが小学校の生活科の中でも活かされていることを知ることができました。小学校での授業のねらいが普段経験していることとつながっていることを聞いて、良い機会になりました。

## 2 成果と課題等について（次年度に向けて）

### （1）小学校教諭

- せっかく丁寧にご指導いただいているのに、学校の忙しい日課の中ではそれを活かさない子供が多い気がした。幼稚園でできていることを受けて、ステップアップできるよう、小学校での指導を工夫する必要性を感じた。
- 幼稚園、保育園での実践を知り、小学校にどうつながっているのか分かった。その中で、小学校でどう活かしていくかは、小学校の課題だと感じた。
- 来年度に向けての課題も話し合うことができたので、連携していきたい。
- 保育園、幼稚園の段階で何ができるのか、できているのかということを確認した上で指導をしていかなければならないと感じた。接続の大切さを改めて実感した。
- コロナ禍のため、ここ2年間は例年とは違う環境だったので、どのように工夫して活動しているかを伝え合う良い機会となった。
- 幼稚園や保育園では体験や日常生活の中で「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」を意識していることがよく分かったので、小学校での指導に活かしていきたいと思います。
- 各発表を聞いて園での取組の仕方を工夫していきたいと感じた。10の姿についてはそこを目指して子供たちを導くことを目標に子供一人一人の“その子らしさ”を大切に小学校へつながるように伸ばして保育していけるよう取り組んでいきたいと感じた。
- コロナ禍で、今までのような交流はできないが、ビデオやズーム等で小学校の様子を伝え、子供たちが不安に思わず、スムーズな接続ができるようにしていきたい。今までのことにプラスして小学校で活動していきたい。
- なかなか交流ができない幼稚園や保育園の先生方と情報交換することができ、改めて一年生の児童との関わり方や指導について考えることができた。次年度も本研修を行い、有意義な交流ができるとよいと思う。
- 小学校の事例の成果としては、本校も他の学校も同様に意欲の向上が見られていて良いと感じます。また、課題として、発達に応じた支援などが重要になると感じました。
- 幼・保・小の支援、指導のつながりが見られた。幼・保で大切にされている支援で育ってきたことを小学校段階での“褒める視点”として自信をつけさせ、さらに伸ばすことができるようにしていくことが大切であると感じた。
- レポートではなくて、お互いの普段の様子を動画で見合うというのも学べることが多いかと思った。
- 幼・保・小の接続の実践事例や育てほしい10の姿に視点をあてた研修は、共通の内容が多くあり、保育園や幼稚園の取組が具体的にわかり、子供の育ちを共有することができたことが成果だと思いました。
- 年度当初、スタートカリキュラムに沿って、日々の実践をしていくことで精いっぱいだった。入学前の児童の実態を知ったうえでの指導が大切だと思った。
- 実践報告もとてもよいのですが、テーマが別ですと話し合いが深まらない場合もあるので、テーマを共有したり、絞ったりしても良いかと思います。また、時間が短かったので情報交換ができる時間もあると良いかと思いました。
- 遊びをとおして経験してきていることを、さらに小学校で学習につなげられるようにしたいと思います。情報を共有できることは、大切な機会だと思います。幼・保での野菜作りのグループ活動は素晴らしいと思いました。（話し合い活動もありで）
- やはり交流会などで実際に小学校に来てもらうことで、幼・保の子供たちは学校生活がより具体的に分かる、憧れももてることでした。コロナ禍ですが、できる範囲で交流し、子供たちが小学校生活を楽しみにできるよう、今できることを工夫していきたいです。
- 1年の担任だけのものではなく、校内で共有しなければならないので、機会を作るようにします。
- 交流がなかなかもてないが、DVD やオンラインなどでできることを工夫して行っていくことが大切だと思いました。教員同士の交流は、とても貴重な時間で勉強になりました。

- 今は、社会的な状況の中、できないことは多くありますが、接続の円滑化を図るためにも幼・保・小の連携は継続していきたいと思います。交流会についても、できることを見つけて実施できるといいと思っています。
- 校内で2weeks やスタートカリキュラム、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について共有し、職員全員で新1年生を迎えることができるようにしたいと思います。

## (2) 幼稚園教諭

- 近隣の小学校、保育園とのグループディスカッションだったので、とても勉強になった。二極化の問題をいかに減らしていくか、自分自身の今後の課題にしていきたい。
- 同じ地域の先生方といつも話をしているので、違う地域の先生と交流しても良いのかな、と思う。
- 小学校はどのような場所であるのか、活動内容なども含め、子供たちに工夫して伝えていくことが課題かなと思った。また、一人一人が10の姿の項目でどう成長したかというのをしっかり把握して小学校の先生にも伝えていけるようにしたい。
- 小学校の先生とお話することができ、進学に向け、基本的な生活習慣を見直し、小学校への期待がもてる生活をしていこうと思った。子供たちが学校へ行けないのが残念だが、交流できる日を楽しみにしたい。
- 「幼稚園で学んだことが小学校でどう活かされるのか、見通しやイメージをもっていますか？」というお話を聞いて、ハッとした。10の姿は意識していても、それが小学校でのどんな活動や姿になっているかという視点や勉強をしなければ、と気付いた。
- 自園での取組が小学校での活動につながっていると知れたこと。また、近隣の小学校とのかかわりについてコロナ禍でもできることを見付けるのが課題。
- 子供たちのつながり関わりを自分から進めていけるように、友達同士の様子をもっと見つけていきたいです。
- 年長に進級して、早い段階で箸を正しく持てるように使ってみたり、連絡帳を書いてみることであったり、少しずつ出来るようになっていけるとスムーズに小学校生活が遅れるのではないかと感じたので、3学期、そして次年度に反映させていきたいと思いました。
- 私自身、最初のお手紙を見ておらず、実践報告がないままの参加になってしまい、申し訳ありませんでした。直接口頭にて話をさせていただきました。ご迷惑をおかけしました。
- この研修をとおして小学校に上がるまでにできるようになった方がいいことを学ぶことができたので、卒園までに少しでも子供たちの安心につながるよう援助していきたいです。また、遊びをとおして学ぶことが多いと思うので、たくさん遊んでもらえたらなと感じます。
- 指導主事の方のお話にあったように、一つ一つの活動がどのような形で接続につながっているのかをイメージしながら進めていきたい。

## (3) 保育士

- 「10の姿」に向けて意識しながらも達成することではなく、その途中の過程を認めていきたい。小学校でも二極化が問題となっているようなので、少人数で接することができる今だからこそ、小学校で順応できる子に導けるように保育したいと思う。
- 1年生の様子を聞くことができ、どんなことを大切に保育していこうか考えることができた。コロナ対策をしながら小学校と幼保の子供たちが交流できるとよいと思う。
- コロナが長引くなら、どう子供を育てていったらよいのかを幼保小で捉え直さないと子供の育ちが保障できないのではないかと心配になる。他地域の幼保小と交流する機会ももちたい。
- 幼稚園や保育所で学んだ知識を小学校でどう活かされているかを見通して保育ができる保育者になりたいと思う。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識しながら、その姿に向かってどう育てているか、一人一人の成長、思いを大切にしながら保育していきたいと思う。
- コロナ禍ということで、交流ができないのでZOOM等を利用して交流できたら良いと思った。
- 今後も遊びを通して様々な経験をさせてあげたいと思う。

- 完全な成果が出ているのか子供たちに身に付いているのか分からないが、活動を行ったことで変化があったり一人一人が成長したりする姿が見られた。10の姿に自然と生活の中で取り組んでいき、小学校でスムーズに学びにつなげられるようにしたいと思う。
- 小学校との交流ができないため、画像を用いてどのような場所なのか、どんな活動をするのか伝えていきたい。
- 他グループの発表を聞く中で、保育所が大切にしてきたこと、これからも大切にしていきたいことが具体的になったと感じる。職場で共有し、今後の保育に活かしていきたい。
- コロナ禍で関わりが制限されるが、その中でもできることを見つけて取り組んでいく。
- 小学校へ行ってから、子供がどう育っていったか、小学校教諭に伝え、今まで積み重ねてきた子供の育ちをゼロにせず、伸ばしてもらえよう連携を図る。
- 子供に丁寧に寄り添いながら子供たちが自主的に活動に取り組み楽しみながら小学校へ行けるようにできるとよいと感じた。クラスで受け身な子が多いため、意見を言えるように自信をつけて卒園させてあげたいと思う。
- 自信をもって活動ができるよう、一人一人の良いところをのばせるようにしたい。見守ることも大切。(自主性)工夫して、小学校へ向けてのベースを作っていきたい。
- 幼保で取り組んでいることは就学で0に戻ってしまうのではなく小学校と繋がりがあがり、子供たちが自信をもって活動できる為にも、保育所生活での日々の積み重ねが大切だと気づきました。
- 各園や小学校でコロナ禍での対応をとっても違いがあったので、統一できる仕組みがあるといい。年長から1年生になるとお世話をしてもらいがちなので、できる所は見守ったり、自分でしてもらったりと任せてしまってもよいと思うという話になった。
- 近隣の小学校の先生と話せて良かったと思う。最後に話されていた近隣で出来る事など、話せる機会が出来たらより良いものになるのだと思いました。
- 具体的なことを聞いて勉強になりました。(時計の読み方、鉛筆の持ち方、箸の使い方など)
- 今回の研修で、子供たちが卒園して小学生になってから、園生活で身についた力がどのように活かされていくかを見据えて計画を立てることが大切だと感じました。
- 近隣同士でももう少し情報共有ができると良いと思いました。子供たちも小学校を楽しみにしているのだから、交流会がなくなってしまっていることが残念ですが、ZoomやDVDを送ってくださる学校もあり、大変感謝しています。様々な方法で少しでも学校の様子が知れたらと思います。
- 今回の連携合同研修会で知った事、参考にしたいと思った事を、園で共有してよりよい保育生活をし、子供たちが小学生になってもなるべく困らないように配慮していきたい。
- 事例はとても分かりやすく、イメージしやすいので次年度もできると良いと思った。また同じグループ以外のも見られると参考にできるので良いと思った。
- 今、本園で行っているグループ活動は、小学校でも大事と聞いて、引き続き行っていきたいと思った。就学に向けて子供たちが楽しみに過ごせるようにすることを第一に、基本的な身支度、整理整頓、自分の思いを言葉で伝えることができるよう保育をしたい。
- 今まで小学校のことは分からないが多かったので、今後こうした機会を設けていただくことで、子供たちにとっても保育者にとっても、スムーズな連携を考えられると思いました。ありがとうございました。
- 野菜を育てる経験が小学校でも活かされている、生活面においても自分の身の周りのこと、友達のこと、思いやりなど今後も子供たちの様子をしっかりと見ていき、職員間でも共有していきたいと思う。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」は到達点ではないと聞き、焦ることなく取り組みながら小学校への接続をして、子供の不安、負担にならないようにしていきたいと思った。
- 本日、得た情報を園で共有し子供たちが不安にならないよう保育の活動をしていきたいと思ひます。自園としては、整理整頓がまだまだかなと思うので、参考にしながら取り組んでいきたいと思ひます。

- 改めて、小学校でどう活かされていくのか考えながら、見通しを持った計画を立てていきたいです。小学校に対する不安をできる限りなくし、期待感を持って就学してもらいたいと思います。子供たちがつまづかないためにも、様々な経験をさせてあげたいです。
- 行事や普段の遊びをとおして、1つのものに気持ちを向けることが主体性や協調性につながることは引き続きやっていきたい。
- コロナ禍で交流が難しいこともありますが、状況によってその時にできる最善のことを考え、行っていき、子供たちの就学への期待を膨らませていってあげたいと感じました。
- 話を聞くことや身の周りのことなど一つ一つ丁寧に向き合いながら取り組んでいき、スムーズに安心して小学校生活が遅れるようにしていきたいと感じました。
- 小学校の話聞くことができ、具体的なことが分かり、たくさんの経験をさせていくことが大切だと感じた。このような話をたくさんの方に知らせることが大事だと感じた。
- 今、経験したことが小学校でどのように活かされているかを意識することを大事に日々の保育に取り組んでいきたいと思います。また、時間で区切った生活は後半に取り入れていきたいと思いました。

### 3 その他

#### (1) 小学校教諭

- 普段はあまり話し合えない貴重な機会を作っていただきありがとうございました。
- 貴重な意見交換などができてよかったです。ありがとうございました。
- 本日は、貴重な機会をいただき、ありがとうございました。小1ギャップや自己肯定感を高めていくための取組をするために、指導者のさらなる連携が大切だと感じました。ありがとうございました。
- 参加できてよかったです。これからの教育活動に活かしていきたいです。ありがとうございました。
- お世話になりました。ありがとうございました。

#### (2) 幼稚園教諭

- 本日はこのような場を設けていただきありがとうございました。大変勉強になり、楽しく受講することができた。
- 初めて参加させて頂き、とても勉強になりました。話し合いの場では少し聞き取りづらかったのが残念でした。早くコロナが落ち着きますように祈っています。ありがとうございました。

#### (3) 保育士

- 様々な学校、保育所、幼稚園の方の話を聞かせていただく機会を作っていただき、ありがとうございました。
- グループ協議の際、ついでで聞こえづらい時があった。工夫できたら良い。
- 仕方がないが、パーテーションで話が聞き取れず残念。もっとよく聞きたかった。
- 小学校のことをもっと聞きたい、知りたいと思ったので、Zoomなどで情報交換ができるとありがたい。
- 今回、鬼ごっこの例で小学校との対応の違いの話がありましたが、そのような話をこのような場で情報交換できれば良いと思いました。準備等ありがとうございました。
- 本日はありがとうございました。

## 協議資料（1）

## 【第1回協議会の趣旨】 幼児・保育施設での発達支援の必要な幼児に係る現状と課題

- （現状①）発達支援を要する幼児を多く受け入れていると感じる幼児施設が多い。
- （現状②）県が主催する研修会に参加する等、教員の指導力向上を図っている。
- （現状③）発達支援相談センターの「発達支援専門員巡回事業」が効果的に実施されている。
- （課題①）教員の指導力向上
- （課題②）保護者への関わり方について悩みを抱える教員が多い。
- （課題③）教員の情報共有の時間の確保（特に保育施設において）
- （課題④）加配教員の充足と効果的な活用

## 【第1回協議会・幼児施設視察における主な意見】

- ・ 幼児施設では、診断名で判断するのではなく、その子にとって何が必要かという視点で指導している。「発達支援専門員巡回事業」では、専門員からの助言が大変参考になると思う。その子の良さを出すにはどうしたらいいか、それぞれの教員が共有しチームで保育にあたっている。
- ・ 発達支援が必要な幼児への対応については、上手い教員と難しい教員がいるため、管理職がしっかり注意する必要があると感じる。
- ・ 免許や資格の制度上は、まだ不十分だと感じている。教員が実践の中で経験を積み重ねたり、現場での研修等は重要だと思う。
- ・ 発達支援が必要な幼児は、指導の仕方でも、集団生活に馴染めるようになる幼児も多い。丁寧な指導をする必要があると感じる。
- ・ 保護者にどう伝えるか、幼児施設と保護者との情報共有の仕方等の悩みが多いと感じる。
- ・ 教員間で問題を共有しながら、その幼児に適正な対応をする必要がある。
- ・ 「発達支援専門員巡回事業」では、専門的なアドバイスをいただけるので、現場の職員は大変参考になり、助かっている。
- ・ 開所時間の長い保育園（所）では、保育士全員が集まる時間が取れないため、情報共有が難しい。
- ・ 診断がない場合、特に年齢が低い場合、保護者にとっては、なかなか受容できないこともあるため、診断を受けなくても、加配を受けられるような仕組みがあればいいと思う。
- ・ 幼児施設では、忙しい勤務の中で子供にどのように関わったらいいかという問題が常に生じているかと思う。研修会まで待つことなく、電話で相談ができるような支援があるといいと思う。

## 幼児・保育施設での発達支援に必要な幼児に係る課題解決の手立てについて

### （課題①）教員の指導力向上

- 「発達支援専門員巡回事業」では、担任教員だけでなく主任教員が随行し、いただいた助言は担任教員と主任教員で共有し、実践できそうなものは、すぐ対応するようにしている。
- 私立幼稚園・認定こども園では、全埼玉私立幼稚園連合会の特別支援委員会が専門家による講演会を年に2回実施しており、発達支援が必要な幼児に対応する教員が参加している。
- 県が主催する発達支援サポーター育成研修（年3回実施）及びレベルアップ研修等に毎年教員が参加している。研修の成果は職員会議で共有している。（私立幼稚園）
- 経験の浅い教員もいるので、1人で対応するのではなく、全員で課題を共有し対応している。
- 研修を受講した教員が内容をフィードバックし、職員全員で共有している。（市立保育所）
- △保育所（園）では、研修に参加する時間が取れない。

### （課題②）保護者への関わり方について

- 保護者と定期的に面談を行い、情報交換をするとともに、日常の保育の様子を参観いただき、食事の様子や幼児同士の遊びの様子などを確認していただいている。
- 行政（発達支援相談センター等）につなげるような声掛けを行い、「発達支援専門員巡回事業」を活用し、専門員の方からの助言として保護者に伝えることで理解を得ている。

### （課題③）職員の情報共有の時間の確保について

- 個々の幼児の状況を把握し、ケース会議等を実施して教員個人やクラスの問題としてではなく、保育所全体で共有するようにしている。（市立保育所）
- 定期的な職員会議で情報共有を行うほか、幼児の降園後、適宜情報共有できる時間を確保するようにしている。（私立幼稚園）
- 保育園（所）では、長時間子供を預かるので、職員が一同に集まる時間を作るのは困難だが、短い時間でも複数回時間を設定する等、工夫している。

### （課題④）加配教員の充足と効果的な活用

- 私立幼稚園・認定こども園では、就園前の2歳児を預かる施設が増えている。就園前から、個々の幼児の発達状況や家庭環境等の情報収集、また保護者とよく話し合いを行っている。加配教員が必要な場合は、補助金の申請を行い、予算に組み込めるよう対応している。
- クラス内での発達支援が必要な幼児と加配教員の位置を工夫している。
- 教員と加配教員の事前準備や支援体制をしっかりと行っている。



## 協議資料（2）

## 発達支援を必要とする幼児の小学校への接続に関する現状と課題の把握について

## 【第1回協議会・幼児施設視察における主な意見】

- ・小学校では、入学にあたり、全ての幼児が滑らかに接続できるよう迎える準備を進めている。主な取組としては、各幼児施設との情報交換や幼児の小学校探検、小学校教員の幼児施設での保育参観等がある。幼児施設から小学校へ環境が大きく変わるため不安に思う子供が多いので、丁寧に対応するようにしている。発達支援が必要な幼児については、保護者の思いや幼児施設の方針等も含めて丁寧に情報交換を行い、必要に応じて、入学後にも保護者や幼児施設と連携し相談等を行っている。
- ・幼児施設との連携については、1つの小学校に複数の園から入学してくるため、全ての幼児施設に職員が行くことはできないが、近隣の施設には伺って情報共有している。幼児施設では、ほぼ全ての先生に小学校に来ていただいている。幼児にも小学校に来ていただいているが、昨年度は、コロナ禍だったため、例年の半分以上の少人数での訪問を受け、子供同士の交流はできなかった。
- ・幼児施設の立場として言えば、幼児施設では子供1人1人を大事に成長させ、小学校に送り出したのに、小学校に入ると、まだここまでしかできないのかと言われるという保護者の嘆きをよく耳にする。小学校側も、平均と比べるとまだ低くても、こんなに成長したという思いを受け入れていただけるような接続の在り方が大切だと感じる。
- ・友達がいるから一緒に小学校に行きたいという子供もいる。保護者にとっても、仲のいい友達と同じ小学校に行かせたいという願いもある。特別支援学校に行くよりもまずは、一緒に同じ小学校に行きたいという思いを受けて入学する小学校の中で支援籍の枠を広げて、友達と関わりながらでも、必要なケアも受けられる小学校の在り方というのが今後必要になってくるのかなと思う。

## 令和3年度上尾市幼児教育推進協議会委員名簿

区分	氏名	職名
委1 員号	首藤 敏元	埼玉大学教育学部教授
	寺崎 恵子	聖学院大学人文学部児童学科准教授
委2 員号	長 いづみ	上尾市私立保育園協会 ころぼっくる第2保育園長
	熊坂 恵子	上尾市立保育所所長連絡会会長 上尾市立大谷保育所長
委3 員号	田中 元三郎	上尾市私立幼稚園認定こども園協会会長 みやした幼稚園長
	田中 栄次郎	上尾市立平方幼稚園長
委4 員号	小林 斗志子	上尾市立原市南小学校長
委5 員号	安田 治子	理学療法士

## 関係職員

課名	職名	氏名
子ども未来部 保育課	課長	藤波 伴安
	主幹	須田 範子
子ども未来部 発達支援相談センター	所長	小林 秀幸
	主査	安留 忠臣

## 事務局

課名	職名	氏名
学校教育部	部長	瀧沢 葉子
	次長	関 孝夫
学校教育部指導課	課長	瀧澤 誠
	副主幹	山田 絵美
	主任	野間 衣里

## ○上尾市幼児教育推進協議会条例

令和3年3月26日条例第2号

## 上尾市幼児教育推進協議会条例

(設置)

**第1条** 幼児教育の推進を図るため、上尾市幼児教育推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(所掌事務)

**第2条** 協議会は、上尾市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 幼児教育の推進に関する調査研究に関すること。
- (2) 幼稚園（学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する幼稚園をいう。次条第2項において同じ。）、認定こども園（就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成18年法律第77号）第2条第6項に規定する認定こども園をいう。次条第2項において同じ。）及び保育所（児童福祉法（昭和22年法律第164号）第39条第1項に規定する保育所をいう。次条第2項において同じ。）と小学校との連携の具体的な推進に関すること。
- (3) その他幼児教育の推進に関すること。

(組織)

**第3条** 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱し、又は任命する。

- (1) 幼児教育に関し学識経験のある者
- (2) 市内に設置されている保育所において保育事業に携わる者
- (3) 市内に設置されている幼稚園又は認定こども園において幼児教育に携わる者
- (4) 市立小学校の校長を代表する者
- (5) 前各号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

(委員の任期)

**第4条** 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、委嘱され、又は任命された時における当該身分を失ったときは、その職を失う。
- 3 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

**第5条** 協議会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

**第6条** 協議会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 協議会の会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員は、自己に直接利害関係のある議事については、加わることはできない。ただし、協議会の会議において議決による同意があったときは、この限りでない。

(関係者の会議への出席等)

**第7条** 協議会は、その所掌事務を遂行するため必要があると認めるときは、関係者に対して、資料の提出を求め、又は会議への出席を求めてその意見若しくは説明を聴くことができる。

(庶務)

**第8条** 協議会の庶務は、教育委員会事務局学校教育部において処理する。

(委任)

**第9条** この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会が定める。

## 附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、令和3年4月1日から施行する。  
(上尾市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 2 上尾市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（昭和31年上尾市条例第17号）の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

## 【協議事項】

私立保育園協会

## (1) 幼児・保育施設での発達支援の必要な幼児に係る課題解決の手立てについて

- ・ 今までに巡回相談で貰ったアドバイスを基に、援助を必要な子のタイプの類似点を見つけて早対応をする。
- ・ キャリアアップ研修他、研修を積極的に利用して職員が学べる機会を積極的に作る。

## (2) 発達支援を必要とする幼児の小学校への接続に関する現状と課題の把握について

## ① 現状

- ・ コロナ禍で小学校との交流事業がほとんど出来ていないが、情報公開会や参加できる機会には、小学校での様子を見に行くようにしている。
- ・ 保育要録持参時の情報交換の場を活用して、支援が必要な子どもについて詳細を伝える。
- ・ 保護者には、小学校入学を見据えた話をする。(小学校では保育園の時以上に家庭の援助が必要になること、どのような援助になるかの想定を伝える。)
- ・ 就学時健診で問題ないとされた子ども、保育園で気になっている問題点は必ず事前に学校に伝えるようにしている。

## ② 課題の把握について

- ・ 公的に小学校教師との連絡会議を行って就学前の児童の様子を伝えると共に、卒園した児童の成長も教えてもらいその姿を今後の各保育園での学びにつなげたい。
- ・ 小学校見学・体験入学の機会を市内で統一に作って欲しい。
- ・ 小学校という新しい環境に多様な園環境の子どもが集まると、子ども同士お互いが影響し合い問題行動が増幅される場合もあるので、小学校の3年生ぐらいまでは、サポート教諭を付け支援して欲しい。
- ・ 発達支援を必要とする子が困ることの無いように長いスパンで考えて、保育園で積み重ねてきた支援について小学校でも途絶えること無く続けて欲しい。